

毎日大変なお仕事のご苦労様です。

私は

九州建設アスベスト訴訟原告の 高橋登代子と  
申します。

この度は原告の旨を代表して被害者と遺族の  
気持ちを先生方に理解していただきたく又、

方になさっていたいただきたく福岡から

お願いに参りました。 私ども遺族原告

は大黒柱を亡くして 毎日涙に暮れ

心が折れそうは日々を過して参ります。

夫は四十年以上サッカーエとして仕事に励んで参ら

りました。六十五歳で引退して これから小さな

楽ーみさと思っていた矢先 アスベストによる

No1

No.2  
御いすいた。そのまゝそれからわけずか三ヵ月後に  
とくほりすいた。あんなに元気だった夫が倒れる  
なんて、又、亡くなるなんて想像もしていませんでした。  
夫は病気の原因がアスベストのせいとも知らず、  
まま亡くなり最期は会話もできないうま折つて  
しまっていました。

家族は目の前が真っ暗に分り、言葉葉を無くし  
涙で明け暮れていま一母日です。

この病気は想像を絶する苦しみで水も飲めな  
い飲みば死んでしまおうと言われ一母日

水を飲ませてくれ」との主人の言葉葉が今でも耳  
から離れません。

今でも主人が夢枕に立ち 苦しい顔と怒った顔で  
立上り悲しみが増えています。

アスベストはとも怖い病気で四帷つていましては  
本人も家族も苦しいの地獄に穴まで甘落とされし毎日  
苦しいめらいます。

この気持ちには私だけでなく被害者と家族比自  
同じ気持ちだと思います。 せいで

先生にご理解いただき 力になろうと下さることを  
切にお願い申し上げます。

一日も早く国と企業は謝り もう二度と私たちの様  
子アスベスト被害者が出ないよう対策を取って  
ほしいと思います。

先生方には原告一同のこの叫びに耳を傾けて  
いただき

賛同議員として「アスベスト被害の根絶」に  
ご尽力下さいますようお願い申し上げます。

先生方も日々大変なお仕事ですのでくれぐれも  
お身体を大切になさってください。

九州建設アスベスト訴訟

原告 高橋登代子

# 国会議員へのお手紙

毎日大変なお仕事と苦勞様です

私は九州建設アスベスト訴訟の

原告の茨木康夫（いばらぎやすお）

と申します

この度は国会議員の先生に、私たち

アスベスト被害者や遺族の気持ちをご

理解していただくために、また、

お力をお借りし、福岡からお慶いに

参りました。

私は物づくりが好きなことから、17歳から

45年大工として仕事をやってきました。

しかし、多くの建材にアスベストが使われ

アスベストを吸うと、健康被害を及ぼす

危険な物とは全く知られずに、家族を

守るために、一生懸命に働いてきた結果、

アスベストにより肺癆に侵されました。

手術をして右肺の三分の一を摘出し、

今は何とか命だけはあります。が今でも

突然と体調不良になったり背中が急に

痛み出して息苦しくなったり、とても

仕事ができる状況ではなく今でも、

通院している状況です。

現在、私の命は繋がっています。が全国には

わたし以上に苦しんでいる被害者や家族を

奪われた方々が多くいます。

ついでに3ヶ月前にもアスベスト疾病と

闘う仲間が命を奪われ、家族の苦しみ

姿や悲しい姿を見ると胸が痛むと

同時にいつ自分もかかと胸をよぎります。

先生方には、全国のアスベスト被害者の

実態に目をむけ悲痛な声に耳を傾けて

いただき、ぜひ賛同議員として

「すべてのアスベスト被害の根絶」にご尽

かゝる頂きますようお願い致します。

九州建設マスト訴訟

原告 茨木康夫

## 国会議員の先生方へ

毎日大変なお仕事ご苦労様です。

私は、九州建設アスベスト訴訟原告の柴田清子と申します。

この度は、原告の皆さんを代表して被害者と遺族の気持ちで先生方に理解して頂き、又、力になって頂きたく、福岡からお願いに参りました。

私の夫は、体の痛み、闘病の苦しみ、死の恐怖でさまよいながら六十二歳で亡くなりました。

三十九年の東京オリンピックの年に職人の道にはいりました。四十四年間、仕事一筋でした。これから孫たちとゆつくりしたい矢先でしたが、背中の痛みを感じて病院に行つたところ、検査結果は、いきなり手術は出来ません。余命六ヶ月と診断されました。医師の言葉に呆然となり、今まで趣味もなく仕事一筋でやって来た夫は、身の置き場所さえ失ってしまいました。

今の日本を支えて来た職人さん達を国、企業は利益だけを考えてアスベスト建材を製造販売してきました。また、国もそれを認めてきました。高度経済成長時代の建築・建設現場の先端を行つた主人達を恐ろしいアスベスト建材が、待っているとは知らずに頑張ってきました。

私たち遺族原告は、働き盛りの大黒柱を亡くして、毎日心が折れそうな日々を過ごしています。

被害者、遺族の悲しみをどうか先生達にも理解して頂きたくお願いに上がりました。

今でも毎日のように、アスベスト被害で、苦しんでいる職人さん達が出てきています。アスベスト患者の苦しみは、見たくはありません。主人だけで充分です。

このような、アスベストの被害者が、出ないように対策を取って頂きたいとおもいます。

先生方には、原告被害者の叫びに耳を傾けてアスベスト被害撲滅に力を下さる様々に切にお願い致します。

先生方も日々のお仕事大変でしょうが、お身体をお大事になさってください。

九州建設アスベスト訴訟

原告 柴田清子